

各ワーキンググループ等の検討状況等について

I. エゾシカ・ヒグマワーキンググループの経過報告・今後の予定

1 経過報告

令和元年度エゾシカ・ヒグマ WG の開催概要

●第1回会議

令和元年6月26日（水）羅臼町（ヒグマ関係）／27日（木）羅臼町（エゾシカ関係）

※26日（水）午前中にエクスカージョンを実施：エゾシカ捕獲事業地（SS、囲い罠等）及びヒグマ対策事業地（飼い犬食害現場や水産加工場での電気柵の設置状況等）を確認しました。

●第2回会議

令和元年12月3日（火）釧路市（ヒグマ関係）／4日（水）釧路市（エゾシカ関係）

○主な議題

<ヒグマ関係>

- ・知床半島ヒグマ管理計画の進捗状況（速報）
- ・知床ヒグマ対策連絡会議の対応状況
- ・ヒグマの適正管理に必要な調査・研究の実施状況

<エゾシカ関係>

- ・2019（R1）シカ年度冬期事業計画（報告）
- ・2019（R1）シカ年度植生、鳥類、昆虫類モニタリング結果（速報）
- ・世界遺産地域の隣接地域における今後の管理方針
- ・日没時銃猟と捕獲個体の残置

<共通>

- ・長期モニタリング計画の評価方法

○第2回会議の主な内容

<ヒグマ関係>

- ・羅臼における出没対応として、電気柵の維持管理や草刈りが現体制では困難になっています。住民や町内会などを含めた地域ぐるみで取り組む仕組み作りが肝要との意見がありました。
- ・今年度の羅臼町での出没・被害状況についてニューズレター等の媒体を積極的に活用して普及啓発すべきとの意見がありました。
- ・今年度新たに実施した道路上でのドライバー等への注意喚起（電光掲示板での標語の表示等）について、継続・強化すべきとの意見がありました。
- ・ヒグマ出没時の対応について、追い払いよりも利用者指導に重点を置いた対応を試行中であることが報告されました。

- ・シャトルバスによるアクセスコントロールについて、利用者の安全と良質な自然体験の場の確保につながり、採算性等に係る課題があるものの、継続検討すべきとされました。
- ・ヒグマが住宅地等に現れた場合の銃器の使用について、法的な対応を含めて北海道庁と北海道警察の間で協議した内容をWGに報告することとしました。

<エゾシカ関係>

- ・植生等の調査結果について検討するため、調査結果概要や具体的なデータを第2回のWGで提示できるよう、仕様書に明記すべきとの意見がありました。
- ・5年に1回実施している鳥類調査及び昆虫類調査について、各調査の位置づけ（生物多様性の動向をモニタリングするのか、エゾシカの影響そのものを見るのか）の明確化と統一したモニタリング手法の確認を次回WGで行うこととしました。
- ・次期管理計画に向けて、隣接地域における今後の管理方針について、エゾシカの持続可能な資源利用を考慮し、利活用施設の経営等の現状把握をするべき等の意見があり、関係機関で検討・協議を進めていくこととなりました。
- ・導入が検討されている日没時銃猟と捕獲個体の残置について制度等の確認を行い、早ければ来シーズンから開始できるように所要の調整・手続きを行っていくこととされました。

<共通（長期モニタリング計画の評価方法）>

- ・評価項目の評価の作業方針（案）及び評価項目の評価シートについて、改善点に賛成意見があり、科学委員会に諮った上で、来年度以降に評価作業を行うことが了承されました。

2 今後の予定

(1) 令和2年度エゾシカ・ヒグマWGの開催予定

●第1回WG会議

令和2年6月頃 釧路市

●第2回WG会議

令和2年12月頃 釧路市または札幌市（未定）

(2) 2020シカ年度実行計画

- ・R2シカ年度実行計画を、今シカ年度事業結果等を踏まえて6月頃までに策定する予定です。
- ・3月（予定）のヒグマ対策連絡会議でR2年度のアクションプランを策定する予定です。
- ・エゾシカ・ヒグマWGにおいて科学的な評価及び助言を得ながら上記の計画に基づく取り組みを進めます。